

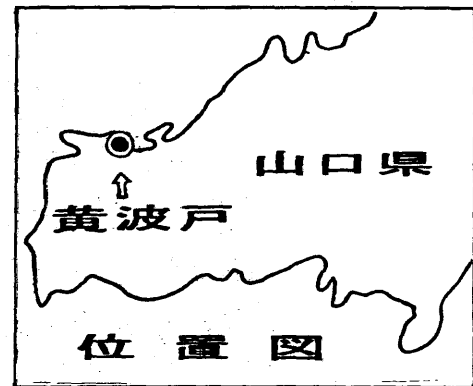
今日も「ママレード倶楽部」は、 元気です！

黄波戸漁協婦人部
若妻会 ママレード倶楽部
代表 中村裕子

1 地域と漁業の概要

私たちの住んでおります山口県日置町黄波戸は、萩市から車で30分位の所に位置し、「北長門海岸国定公園・青海島」が目の前に広がる、古くから温泉の恵みを受けた人情溢れる世帯数322戸の漁村です。

黄波戸漁協は、正組合員91名、准組合員127名、主な漁種は一本釣り、採貝藻、刺し網及び漁協自営の定置網で、年間3億8千万円の水揚げをしています。



2 組織及び運営

黄波戸漁協婦人部は、昭和30年に結成され、現在部員は143名、部長以下5名の役員、班長14名により、地域の環境保全活動・ボランティア活動・天然石けんの推進および魚食普及活動、またまつりやイベント等に参加し、地域密着型の活動を行っています。

かつて平成元年当時の婦人部は部員数も237名を数え、活動も今以上に活発に行っておりましてが、時代の流れと共に高齢化や仕事を持つ部員の婦人部離れなどにより、しだいに部員の減少が始まり、このままいくと婦人部存続も危ういのではないかとという危機感の中、平成6年当時の婦人部長さんをはじめ、役員熱心な呼びかけにより、平成7年4月黄波戸漁協婦人部に“若妻会”「ママレード倶楽部」が誕生しました。

漁協組合長さんをはじめ、漁協関係者や婦人部の方々はもちろん、日置町や自治会の温かい激励と強力なバックアップをいただき、発足会には地元町長もご出席下さいました。

20代～30代の15名で船出したわが「ママレード倶楽部」も早いもので丸4年が経とうとしています。

この“若妻会”「ママレード倶楽部」、中々響きも良く、かわいい名前じゃないかと、とても気に入っています。

「ママレード」と聞くと、オレンジで作るママレードジャムを連想されるかもしれませんが、私たちのママレードには実は別の熱い想いが込められています。

私たち15名は、皆子育て奮闘中の現役のお母さん、つまりママたちです。日々の生活の中では喜びや楽しい事も多いのですが、反面、いろいろなストレスに悩まされたり、イライラしてしまう事も少なくありません。そんな日常の中でも内にばかり籠もらないで、どんどん外に目を向け、色々な事に興味を持って楽しむ気持ちを忘れない、そんな生き生

き輝けるママを目指して、「ママ、えーど!」「ママ頑張れ!」「自分自身にエールを贈ろう!」という意味を込めて、「ママ、えーど」の『ママレード倶楽部』となりました。ですから、皆とても元気で活気の良さが自慢です。

3 実践活動課題選定の動機

いつも活気あふれる、ママレード倶楽部の“元気の素”。

それは若さはもちろんですが、私たちがその活動の中で、いつも地域に住む世代を越えた様々な方々と共にふれあい、共に生きることによって生まれているのです。

「高齢者」「若いお母さん」「子供たち」……。この黄波戸に住む全員が、こころ豊かに安心して暮らせるお手伝いが出来たらいいね、みんなで輝きたいね、と誓い、活動に取り組んでいます。

主な活動は、二つの柱からなっています。週一回のインディアカやトリムバレーで汗を流す「スポーツ」と、月一回魚料理講習や各種研修会などの、趣向を凝らした「文化的活動」。特に発足当時から、黄波戸で採れる海産物を使った加工品の製造・販売には力を入れてきました。町のふるさと祭りをはじめとする各種イベントなどに出来る限り積極的に参加するよう努めました。また、資源・環境と健康を考える運動としても、廃油を利用した“手作り石けん”作りに取り組み、地区内に広く宣伝、普及しているところです。

メンバーの誰かが「今度は〇〇やりたいね!」と言い出せば、それをやれるとこまで皆でやってみる。いつも好奇心いっぱい、ワクワクする活動がやりたいねと、情報のアンテナを受発信ともにパワー全開にして、「ママレード倶楽部」の活動が一步ずつ前に確実に進んでいます。

4 実践活動の状況および成果

海産物の加工に取り組むにあたっては、車で10分の長門市にある「山口県外海水産試験場」を大いに利用しました。

試験場の水産加工科長さんはじめ職員の方々にもご協力、ご助言をいただきながら、ママレード倶楽部として数々の製品を開発しました。現代人にとかく不足しがちな、鉄分・カルシウムを豊富に含む、ミネラルたっぷりのワカメとヒジキを、子供からお年寄りまでおやつ感覚でパリパリ食べてもらいたいという思いから生まれた、その名も「パリッ子ワカメ」・「パリッ子ヒジキ」。漁協の組合長さん・職員の方々や婦人部長さんはもちろん、子供たちや高齢者の方々に、何度も試食とともに意見をいただきながら試作を繰り返しました。お蔭様で今では地元では知らない人がいないくらい「ママレード倶楽部の手作りおやつ」として、親しまれるようになりました。他にも新鮮な魚を骨ごと使った「魚肉ハンバーグ」。お惣菜としては、ご飯にぴったりの「ヒジキとワカメの茎の佃煮」、そして天然の梅果汁とシソを使用したこだわり「シソワカメ」等々……。

以上すべて添加物は一切使っていない、一つ一つ愛情込めて手作りした自信作です。各イベントにも出品し、大好評をいただいております。去年は地元の小学校や特別養護老人ホームの「福寿苑」で披露し、マスコミでも大きく紹介されました。現在は地元の人たちが気楽に集う、町営の温泉センターのお土産品コーナーにも常時置かせていただいています。これからもずっと作り続け、一人でも多くの方々に食べていただきたいと思ひます。

平成9年の7月、加工活動の中で、今でも忘れられない素敵な出会いがありました。

いつものように、加工品を作るため試験場にお伺いしたところ、日本からは遠く離れた南米ペルーより、はるばる一人の女性が研修に来ておられました。彼女の名前は“ジョルジーナ・松浦”さんとおっしゃる日系三世の、笑顔がとてもチャーミングな方で、ちょうど前日に着任されたばかりという時に知り合いました。年齢も近かったせいか、すぐに意気投合、とても仲良くなり、行ったり来たりのおつき合いが始まりました。

まず日本の文化に触れてもらおうということで、「浴衣の着付け教室」を開催、ジョルジーナさんもはじめは戸惑っておられましたが、日本はおじい様の祖国で、彼女にも日本人の血が流れているせいか、着付けが終わるととても良く似合っていて、大変喜んで下さいました。この時のことを町の広報誌に大きく載せてもらい、地域に紹介されました。

お返しという事で、ジョルジーナさんからは、ペルーの母国語である「スペイン語」を教えてくださいました。英語より発音の難しいスペイン語に、私たちは悪戦苦闘しましたが、余り知らなかったペルーの話聞くことが出来、貴重な体験をさせてもらいました。

彼女が帰国されるまでの約10ヶ月間何度となく行き来し、親交を深めていたので、お別れがとても寂しかったのを覚えています。今思えば、本当に短い間でしたが、ジョルジーナさんとの出会い、思いもかけない国際交流が出来たということは、私たち「ママレード倶楽部」にとって、大きな財産になったように思います。

私たち自慢の「パリッ子ヒジキ」や「魚肉ハンバーグ」などが、こんな素敵な出会いを運んでくれたと思うと、これらのご加工品が増々愛しくなります。

これからもチャレンジ精神を持って行動し、一人でも多くの方々と出会い、ふれ合える「ママレード倶楽部」でありたいと思います。

5 波及効果

高齢者の方々に試食をお願いしているうちに、私たちの活動にまた新しい動きが生まれました。私たちの住む黄波戸地区も高齢化・過疎化が進んでいる中、今日的課題である介護問題に目を向けたいという思いから、数名のメンバーと共に「ホームヘルパー養成講座」を受講し、県知事認定の「ホームヘルパー二級」の資格を取得しました。

現在、通称“さわやかさん”でお馴染みのホームヘルパーとして、地区内の高齢者の家事や介護のお手伝いをしています。

ヘルパーと言ってもまだまだ未熟者ですので、人生の大先輩の方々に接していると、こちらの方が教えられたり、反対に助けられたりしているように思います。しかし、独り暮らしをされている方々の寂しさは、私たちの測り知れないところなのでしょう。こんな私たちでも、訪問する度に心待ちにして下さり、お話しの相手をしてだけで、「あー、ヘルパーさんと話ができて、胸がスーッとした。」とか「今度はいつ来てかね。また頼むね。」と帰り際に言われるときは、“あー、ホームヘルパーになって良かった。”と心から思う瞬間です。

ホームヘルパーとして、高齢者に接しているからでしょうか、自然と福祉についての関心が高まり、「ママレード倶楽部」の中でもよく話題に上がります。ホームヘルパーについても、もっと資格保持者を増やし、地域と密着した活動がしたいと、皆、意欲に燃えているところです。

また昨年の春には、ピアノを近所の子供たちに教えているメンバーの一人の呼び掛けにより、「ママレード倶楽部」の部員の子供たちによる、ピアノ演奏と歌を楽しんでもらいたいと、町内の特別養護老人ホームを初めて慰問しました。子供たちの一生懸命ピアノを弾く姿に感動して涙される方もおられ、「また、来てね!」の言葉に、子供たちは「また来るからね。元気でいてね!」と答え、そのやりとりが今も深くこころに残っています。出来れば、月一度ぐらい定期的に慰問できればと考えています。

6 今後の計画

私たちがいずれ歳を重ね、高齢となっていきます。そうなった時の事を思いながら、誰かが「ママレードも、将来、皆でデイサービスに行こうね。」と言ったり、また誰かがさかさず「風船バレーしたり、温泉に入ったり、おばあさんになってもみんなと一緒に楽しみたいね。」そして、「ジョルジーナさんに会いにペルーに行こう! みんなでペルーの食文化を学んでこようよ!」と、話しに花が咲き、夢は遙か何十年後にまで広がります。

また、私たち「ママレード倶楽部」にとって忘れてはならないのが、部員のこども達です。先程、子供たちと老人ホームを慰問した時の事をお話しましたが、部員15名にはそれぞれ2人~3人の子供がおり、合わせると総勢50名の大所帯です。まだまだ手の掛かる子供たちばかりなので、何かにつけ子供と一緒に活動する事も多く、子供たちも「ママレード倶楽部」の一員と思っているようです。

ある時、私の小学4年生の長男から、「ぼくのお母さんもママレードに入っちゃって、良かった。」と言われました。私が「なんで?」と聞くと、「みんなと一緒に遊ぶのすごく楽しいもん。」という答えが返ってきて、ドッキリしました。「あー、そうか。親が楽しければ、当然子供も楽しいんだな。いい影響を与えているのかな。」と内心うれしくなったのを覚えています。

昨年暮れにも「ママレード倶楽部」恒例、親子合同の“忘年会”を盛大に行い、一同楽しいひと時を過ごしました。これからも子供たちと一緒に成長して行けたら良いな、と思います。

子供たちと高齢者と私たち、世代を越えて、共にふれ合い、共に生きる—“共生”を皆のキーワードに。心ゆたかな地域社会になればと、願わずにはられません。

わが「ママレード倶楽部」が誕生して、早4年、多くの方々を支えられてきたお陰で、順風満帆にやってこれたように思います。これから先、二十一世紀へ向け「ママレード倶楽部」は益々いろいろな事にチャレンジし、私たちだからこそ出来る、私たちにしかできない活動をしよう!と心はずんでいます。

出来るだけたくさんの方々「ママレード倶楽部」という名前を覚えて頂きたいし、欲張りかもしれませんが、山口県に、いえ全国に「ママレード倶楽部あり!」というようになりたいものです。もっともっと仲間を増やし、共に活動する喜び、楽しさを一人でも多くの人と味わえたら最高です。

黄波戸に住んでいて良かった。

若妻会「ママレード倶楽部」に出会えて本当に良かった。

「ママ、えーど!」の合言葉も高らかに、私たち「ママレード倶楽部」全員、これからも元気一杯、頑張ります!

まちかど
トピックス

ペルーから

アミーゴ!

International
Relationship ♪



ゆかたの君は ♪
ママレードクラブ



黄波戸漁協婦人部
(ママレードクラブ)



日系三世ペルー人
(ジェオルジーナ松浦さん)

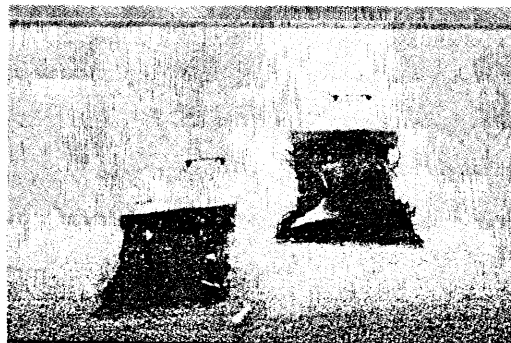
六月十七日、黄波戸漁協婦人部の若妻会(ママレードクラブ・代表小林千春さん)は、ペルーから水産加工の技術研修員として来日している、日系三世のジェオルジーナさんと、浴衣の着付けを通じて、国際交流を図りました。

きっかけは、婦人部が黄波戸の特産品として、「カルシウム、鉄分たっぷりのパリッ子ワカメ、パリッ子ヒジキ」の加工に水産試験場(長門市)を訪れた時に、知り合ったもので、お国柄海藻を食さないジェオルジーナさんが、パリッ子の味に大満足、さっそく友情が芽ばえ、楽しい交流会

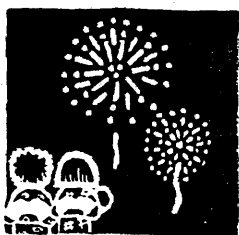


になりました。

ママレードクラブは、メンバーは約十五人、毎週木曜日にスポーツ(ソフトバレー、インディアアカ)活動、毎月第二金曜日に月例会として文化活動をしています。今回は、すてきな浴衣の着付け教室でした。



「パリッ子ワカメ」「パリッ子ヒジキ」



私達にまかせて下さい!!

ホームヘルプサービス



後列左より 好永京子(黄波戸) 小林千春(黄波戸) 森永初美(長行)
前列左より 中村裕子(黄波戸) 岡崎敬子(狩宿)

●サービスの受けられる方

- ・日常生活に支障があり家族だけでは介護できない方
- ・日常生活を営むのに支障があるおむね65才以上の方
- ・身体障害者の方等

●スポットサービスもご利用下さい。(例：清拭だけ、おむつの交換、排泄の介護だけというような15～20分くらいのサービス)

●費用負担

- ・生計中心者の所得により0円～940円(1時間)

介護サービス

衣服の着脱、食事・入浴の介助、清拭・洗髪・排泄の介助、通院などの外出時の介助など。

家事援助サービス

掃除・洗濯・炊事・買い物・縫い物、季節の衣服・器具の入れ換えアイロンかけなど。

その他のサービス

公共機関・医療機関などへの連絡、事務手続の代行、相談・助言など。

在宅介護を応援します。

「日置町社会福祉協議会 広報誌」
～ふれあいネットワーク
～き社協だより～ より